広告
〈企画・制作〉
日本経済新聞社 西部支社 クロスメディア営業部

明治維新が蘇る鹿児島
明治維新150
1868－2018

# 明治維新 The 150th アニバーサリー カウントダウンシンポジウム
## ～薩摩から新たな時代へ～

# 薩摩から生み出す 新しい日本の力タチを探る

2018年、日本の近代化の発端となった明治維新から150周年を迎える。日本の変革を実現した薩摩の精神を振り返りながら現代の鹿児島の魅力を探るシンポジウムが1月17日に東京・大手町の日経ホールで開催された。

## スペシャルトーク
## ヒストリアで知る薩摩秘話

NHKアナウンサー
渡邊 あゆみ氏

私は母、そして夫の両親が福島県の出身ということもあり、昨年は「八重の桜」を夢中で見ていました。その「八重の桜」に出てきた山川捨松、日本人の女性として初めて米国の大学を卒業した、会津のすてきな女性ですね。その方が薩摩の大山巌元帥から求婚された時、彼は捨松さんにこう言ったそうです―「おいも賊軍たい」と。

薩摩は西南戦争を経て薩摩人の中で意見が分かれてしまい、大事な存在だった西郷さんが命を失った。そんな事情を含めて「おいも賊軍たい」と大山巌さんは言いたかったようなのです。

明治政府を率いていたとはいえ、実は薩摩の人たちの心の内にはそういう苦い思いもあった。これは明治維新を振り返る上で、ぜひ知っておきたい大切なことだと思います。

**歴史に刻まれた薩摩人の一途な思い**

ヒストリアなどの番組ではこれまで何度も薩摩、鹿児島について取り上げましたが、本当に多くの心に残るエピソードがあります。たとえば1753年に江戸幕府が、木曽の3つの川の治水を薩摩に命じて行わせた「宝暦の治水」。この時は、多くの困難が降りかかる中、薩摩の人たちがこの事業にどれほどまじめに取り組み、多くの人たちが犠牲になったのかということを改めて知りました。

こんな話もあります。東京大学は第2次世界大戦で戦火に遭い、図書館の貴重な資料の多くを失いました。ところが、今も古い資料があり、それは秀吉の御朱印状をはじめ、大変貴重な資料です。それらはもともと島津藩から購入されたものだったのですが、危険を顧みず、西南戦争の折、鹿児島城から運び出したのもまた薩摩の人たちでした。命にかえても家宝の文書を運び出そうという薩摩人の心意気、これも心打たれる史実の一つです。

ところで、私は実家が鎌倉で、今はNHK横浜局にいるのですが、神奈川と鹿児島のつながりということで興味深いエピソードをご紹介します。

「愛と哀しみの鎌倉」という回の時にロケで頼朝のお墓に行った時のこと。お墓の前に、鎌倉市が作った看板が立っている。その最後の方に、こう書いてあるんです。「現在建っている塔(墓)は、後に島津藩主・島津重豪が整備したものとされます」と。

どうして薩摩のお殿様が頼朝のお墓を造ったのか？ディレクターが一生懸命調べて私に教えてくれたところによれば、実は「島津家の初代は頼朝のご落胤(らくいん)」という説があるらしいんです。

薩摩藩8代目の重豪(しげひで)公は、89歳という当時としては大変長生きされた方で、きっと自分がご先祖様のお墓を造らねばならないと思われたのでしょうね。そんな逸話もあるので、ぜひ皆さん今度鎌倉に行かれたときは、頼朝のお墓を見ていただければと思います。

そして、明治維新150周年に向けて、鹿児島と神奈川に新たな絆が生まれ、育っていくことを願っています。

## トークセッション
## 明治維新150周年に向けて、鹿児島と神奈川が紡ぐ新しい歴史

神奈川県知事
黒岩 祐治氏

鹿児島県知事
伊藤 祐一郎氏

**さまざまなチャネルを通じて交流深める両県**

**伊藤** 南北に600キロという大変長い県土を持つ鹿児島の特徴を一言で表すなら、多様性という言葉がふさわしいと思います。人間も多様ですし、自然形態も多様、植生も多様です。また、鹿児島は琉球貿易をはじめ東南アジアの国々との交流を通じ繁栄した歴史がありますが、「アジアの時代」といわれる中、アジアへの「近さ」が、いま再び鹿児島にとって力の源泉になっていくのではと感じています。

**黒岩** 鹿児島県と神奈川県は、去年4月から交流を進めています。私の父親は鹿児島出身なのですが、そのことに大変誇りを持っていて、神戸で生まれ育っている私も「お前は薩摩隼人(はやと)だ」とさんざん言われて育てられたんです。そんなこともあって、鹿児島にはある種特別な思いを抱いています。

**伊藤** 神奈川県は人口900万を超える大県で、鹿児島とは人口規模において大きな差がある。ただ、明治を作った鹿児島の人の多くは、仕事を求めて関東や関西に出ていきました。関東には鹿児島県人の関係者が100万人ほどいるといわれています。実は神奈川にも鹿児島出身の方は多いんです。

**黒岩** 両県にはいろいろな共通点があります。たとえば火山。鹿児島といえば桜島ですが、箱根も実は火山なんです。神奈川県、山梨県、静岡県が行う富士山噴火に備える合同訓練に向けて、桜島噴火で多くのノウハウを持つ鹿児島県に職員を派遣して勉強させていただきました。このように具体的な両県の連携による成果も実を結びつつあります。

**鹿児島から世界へ日本の将来像を発信**

**黒岩** 明治維新では、あらゆるシステムが変わった。それを薩摩が成し遂げたことはすごいこと。薩摩隼人は公のために生きるのだという父の教えが私にも身についています。

**伊藤** 薩英戦争に続き、薩摩英国留学生派遣、薩長同盟といった歴史的な事象も続々と150周年を迎えます。鹿児島県としてはこれらを機軸にしたイベントの開催などを通じて情報発信を続けていく予定です。環黄海経済圏とともに発展してきた鹿児島としては、明治維新150周年を契機としたシンポジウムを、アジアの国々を含めた形で行ってみたいですね。

**黒岩** 少しでもよい世の中をつくりたい。そのためには薩摩隼人の気高い魂を広めていくことが大事。明治維新は薩長同盟、これからは、薩・神奈同盟でいきたいと思います。

**伊藤** 東南アジアのリーダーたちとお話をしますと、明治維新や西郷隆盛に興味を持っていらっしゃる方が大変多いんです。これからも歴史をひもときながら、日本のあるべき姿を鹿児島から問いかけていきたいと考えています。

(司会)
フリーアナウンサー
坂口 果津奈氏

## パネルディスカッション
## 「豊かな」鹿児島が生んだ歴史と、これから鹿児島が生み出す歴史

―本日は鹿児島の歩んできた過去、つまり私たちが受け継ぐべき資産を再確認しながら、鹿児島の魅力を語り、さらにこれからの鹿児島の姿かたちを描いていきたいと思います。順に現在のご活動について伺いたいと思います。まずは島津家33代にあたり、照国神社の権禰宜(ごんねぎ)も務めておられる島津忠裕さんからお願いします。

**島津** 現在は神職を務めながら、島津興業という会社に勤務しています。島津家の大名庭園・仙巌園を活用した観光事業や薩摩切子の製造販売が主な事業です。鹿児島の歴史の重みで生きている会社なので、鹿児島のポテンシャルを上げることが、ひいては会社の基盤を固めていくことにつながっていると解釈しているので、鹿児島の歴史的な文脈を読み解いて、鹿児島人であることの誇りとか、鹿児島への愛着を深めてもらうことをねらいに活動しています。

**外川** 私は文字として残された歴史資料を基礎としながら、古戦場や城、台場を現地検証することで、文献資料だけでは解明できない歴史の姿を解き明かす研究を続けています。そのために鹿児島にはたびたび取材で訪れていますが、貴重な事例が数多く残された、非常に興味深い土地です。

**中原** 僕は南さつま市の出身ですが、今は東京と鹿児島を行ったり来たりの日々です。もともと家具を自分たちで作ることから会社を始めたのですが、全国各地の産地を訪ねていると、故郷である鹿児島の良さに改めて気付かされます。その良さをどのように自分たちのものづくりに生かしていけるのか、それを日々考えています。

**堀口** 生まれも育ちも江戸なんですが、観光で鹿児島を訪れてから大ファンになりました。鹿児島の魅力はたくさんあるんですけど、やはり一番は人。実は1週間ほど前も現地で今日ご出席の島津さんはじめいろんな方とお会いしてきたんですが、皆さん本当に親切であたたかくて。人々の懐の深さ、面倒見のよさを改めて実感しました。

**――それでは鹿児島、薩摩の歴史ということで、まず明治維新について考えてみたいと思います。明治維新は廃藩置県で200万人の武士の特権を一夜にして奪い、四民平等の社会を実現したという点で、世界史上でもきわめてまれな大変革でした。それほど大きな社会変革であった明治維新を、なぜ薩摩は導くことができたのでしょうか。**

**島津** まず、薩摩の地政上の条件があります。薩摩は国内的にみると西の辺境ですが、対外的には大陸に近い地の利を生かした、海外とのつながりが深い地域でした。海外の産物や文化を日本で最初に受け入れた先進地であるし、世界情勢の影響に真っ先に直面するポジションだったため、国際感覚が豊かで、当時の日本の置かれた情勢を客観的に見ることができたのだと思います。つぎに、薩摩の国柄も重要な要素だと思います。島津氏は、鎌倉時代から始まって700年間国替えがなかったため、家臣団は非常に強い団結力・結束力を持っていました。また、薩摩藩特有の人材育成の制度である郷中教育も大きな役割を果たしたと思います。

### 明治維新、それは世界史上でもまれな社会変革だった

〈コーディネーター〉
志学館大学教授、鹿児島県立図書館館長
原口 泉氏

### 黒船来航以前から海に目を向けていた薩摩の先進性とは

〈パネリスト〉
歴史アナリスト
外川 淳氏

### 国全体を思い行動した薩摩の高い志を新しい世代に伝えたい

〈パネリスト〉
島津家33代、島津興業副社長
島津 忠裕氏

**外川** 海と薩摩藩には非常に深い関係があるのですが、その接点として、私は遠見番所と台場の存在に注目しています。遠見番所とは、南蛮船の襲来に備えて海岸の要衝に築かれた監視施設です。17世紀後半になると他藩では遠見番所の大部分は整理されたのですが、薩摩藩では外国船漂着に備える台場や遠見番所はずっと重要な存在でした。ご存じのとおり薩英戦争で薩摩藩の台場群は英国艦隊との戦いで善戦するのですが、黒船来航以前から海に目を向け、領内の防衛体制を強化していたという事実は、明治維新を考える上で大変重要といえるでしょうね。

**――遡って江戸時代の薩摩藩について、堀口さんに伺います。薩摩は非常に生物多様性に満ちた土地でもあるわけですが、その点に注目し、なおかつ西洋の科学革命の成果を、長崎という窓口を通していち早く取り入れていた人物として、島津家25代の重豪公がいます。**

**堀口** 藩邸に内外の珍品を収集した聚珍實庫(しゅうちんほうこ)というコレクションを作っていた方ですね。重豪公については、オランダ語が話せたとか、オランウータンやイグアナを飼っていて、剥製にして高輪まで持ってきたとか、面白い話がたくさんあるんです。それらにお金をかけていたせいで、5000万両、今でいうと5000億円ぐらいの借金を作ったという、スケールの大きい方だった。周知の通り、後々斉彬公が薩摩藩の近代化を担っていくわけですが、その斉彬公は若い頃から曾祖父・重豪の薫陶を受けていました。斉彬公の偉業の原点はこの重豪公にあったのではと思っています。

**――歴史を振り返ってきましたが、鹿児島と世界との関わりについても考えてみたいと思います。中原さんはお仕事でよく海外に行っておられますね。**

**中原** 鹿児島はナポリ、マイアミ、パースなどと姉妹都市盟約を結んでいます。鹿児島には立派なナポリ通りがありますが、ナポリにもカゴシマ通りがあるんですよ。実際訪れた時には路地みたいなところで、がっかりしたんですが(笑い)。それから、カリフォルニアでは温州ミカンがサツマ、スモモがサツマプラムと呼ばれているんです。現地では幾応年間に藩費留学生として13歳で渡米し、後にカリフォルニアに渡り「葡萄王」と呼ばれた長沢鼎(かなえ)の銅像も見ました。このように世界中いろいろな場所で鹿児島の足跡と出合います。

**――では最後に、これからの鹿児島について、夢を描いていきたいと思います。**

**外川** 今日は愛用の龍門司焼を持ってきました。3年ほど前に窯元を回った時に手に入れたものです。旧跡を巡っていると、鹿児島には本当に豊かな文化や産物があることに改めて気付かされます。

**中原** 6～7年前から、鹿児島の豊かな素材を使ったものづくりをしている新世代のクリエーターたちと「さつまもの」というグループを作って、全国で販売会を行っています。反響も大きく、地元のつくり手たちの意識は確実に変わり始めていると感じます。

**堀口** 今日1日で、いろいろな視点から「豊かな薩摩」を実感させていただきました。私は江戸を拠点に活動していますが、これからは江戸から薩摩の魅力を発信していくお手伝いができればと思っています。

**島津** 歴史的な文脈をひもとけば、薩摩が明治維新の原動力となったのは必然だったわけで、県外の方には実際に鹿児島に観光に来ていただいて、そのような歴史の舞台を巡っていただきたいし、鹿児島県民の方には自分たちのルーツに自信を持って、鹿児島には誇るべきものがたくさんあることを再評価していただければいいなと思います。

**――皆さん、本日はありがとうございました。**

### 薩摩藩近代化の原点となった25代重豪公に注目

〈パネリスト〉
文化人タレント
堀口 茉純氏

### 新しい世代が担う鹿児島ならではの新しいものづくり

〈パネリスト〉
ランドスケーププロダクツ代表
中原 慎一郎氏

鹿児島県 本物の旅かごしま
〈協力〉神奈川県 〈協賛〉鹿児島国際大学 鹿児島大学 白波 東急ホテルズ 山形屋
観光かごしま大キャンペーン推進協議会